

## ◆◆老年看護学実習

### 目的

- 1 様々な健康障害を抱える高齢者を包括的にアセスメントする能力を養う。
- 2 高齢者の生活の質の向上を踏まえた、臨床看護の実践力を高める。

### 目標

- 1 高齢者の身体的・精神的・社会的な加齢変化、健康状態を理解できる。
- 2 高齢者の特徴、健康障害の状態を踏まえ、日常生活の自立に向けた看護が実践できる。
- 3 高齢者の人生観・価値観を尊重し、QOLを考慮した看護が実践できる。
- 4 高齢者をとりまく保健・医療・福祉の連携および看護（師）の役割が理解できる。
- 5 看護実践をとおし自己の老年観を深めることができる。

## 実習内訳

科 目		単 位 (時間)
老年看護学実習Ⅰ 高齢者の日常生活援助実習	臨地実習	(80 時間)
	実践活動外学習	(10 時間)
老年看護学実習Ⅱ 健康障害のある高齢者の看護実習	臨地実習	(80 時間)
	実践活動外学習	(10 時間)
合 計		4 単位 (180 時間)

## 実践活動外学習

目的	内容	時間数
1 実習の目的・目標・内容・方法を確認し、実践活動の準備を整える。	1) 実習内容と進め方 2) 事前学習の確認 3) 実習施設の特徴、指導体制について 4) 安全な看護を実践するためのシミュレーション学習 (看護学生の「診療の補助技術」ガイドラインの確認)	2 時間
2 高齢者の看護実践に伴うリスクマネジメントを予測し、安全な看護を提供するために必要なことを学ぶ。	1) 実践活動の振り返り (高齢者に起こりやすいインシデントについて アクシデント事例があった場合は KYT を用いる 感染予防対策について) 2) 安全な看護技術を提供するための技術練習	8 時間
3 実習目標達成に向けた到達状況を査定し、より質の高い実践活動にむけて取り組む。	1) 受け持ち患者の個別性に合わせた看護を行なうための思考の確認、追加と修正 2) 実習目標の到達状況や看護技術の習得状況の中間評価 3) 退院支援に向けて必要な看護についてグループ討議 (老年Ⅱのみ)	

老年看護学実習Ⅰでは、原則として実習4日目、  
老年看護学実習Ⅱでは、原則として実習8日目を実践活動外学習日とする。

## 【老年看護学実習 I】

授業科目：高齢者の日常生活援助実習

科目目標：1 入院による高齢者の日常生活への影響が理解できる

2 入院している高齢者の日常生活への看護実践ができる

行動目標	実習内容	実習方法
1 高齢者および家族と良好なコミュニケーションを図ることができる	1) 傾聴する態度 2) 自尊心の尊重 3) 生活信条・信念・価値観の尊重 4) 感覚機能低下への配慮（視覚・聴覚） 5) 理解力・認知力に応じた対応 6) 疾病の症状・状態に応じたコミュニケーション 7) 患者・家族への共感的態度	1 対象の加齢変化に応じたコミュニケーションを行う  * 急激な状態変化がなく回復過程が理解しやすい高齢者、会話での意思疎通が可能な高齢者を受け持つ
2 高齢者の加齢に伴う変化と健康状態をアセスメントし、日常生活に与える影響を明らかにできる	1) 対象の理解 (1) 加齢に伴う身体・精神・社会的変化 (2) 疾患の経過と治療方針、治療内容 (3) 症状とその現れ方 (4) 日常生活習慣、生活スタイル (5) 合併症や廃用症候群の出現の有無 (6) ADL の状況と入院前の生活機能 (7) 生活史・時代背景 (8) 性格、価値観、生活信条・信念 (9) 入院環境への適応 (10) 認知力、理解力 (11) 回復意欲、自発性 (12) 社会的役割 (13) 経済状況 (14) 家族関係、介護力	2 1) ADL・IADL 評価表、ブレードンスケール、認知症評価スケール、転倒・転落スコアシート等を有効に活用し対象を理解する 2) 援助を通して受け持ち患者の生活史、生活背景・生活習慣、望む生活などについて情報を収集する
3 入院生活によって支障をきたしている高齢者の個別性をふまえた日常生活援助ができる	1) 対象の日常生活援助の実際 (1) 日常生活行動の自立、残存機能の維持・拡大に向けた援助 (2) 回復意欲の維持・向上のための援助 (3) 運動・感覚機能、危険回避能力が低下した高齢者への援助 (4) 環境適応、調整への援助 (5) セルフケア能力の維持・向上に向けた援助 (6) 寛ぎ・安心・安全に向けた援助援助	3 -1) 以下の視点を考慮し援助を実践する 1) 対象に現れている加齢現象 2) 生活習慣 3) 価値観、信念 4) 意欲 5) 認知力、理解力 6) 易疲労性
4 患者との関わりを通して高齢者の看護の必要性和自己の高齢者観が表現できる	1) 高齢者観 (1) 加齢現象に伴う生活変化 (2) 生活歴と個別性との関連 (3) 加齢に伴う衰退と円熟 2) 高齢者の個別性をふまえた看護の必要性 3) 高齢者のイメージと変化  事前学習 ① 老年期の発達課題 ② 身体的・精神的・社会的加齢変化 ③ 前期高齢者・後期高齢者が生きてきた時代背景・世相・当時流行したものなどを調べる ④ 受け持ち患者の病態生理（症状・治療・検査・看護を含む）	カンファレンステーマ例 ・ 疾病の症状・状態に応じたコミュニケーション ・ 加齢や健康障害による入院生活への影響と援助の必要性 ・ 高齢者の生活習慣や価値観・信念を考慮した援助または、その必要性 ・ 加齢変化を考慮した安全確保のための援助 ・ 安全カンファレンス ・ 対象の個別性をふまえた看護の必要性和自己の老年観

## 【老年看護学実習Ⅱ】

授業科目：健康障害のある高齢者の看護実習

科目目標：1 高齢者の健康レベルとゴールを見定め、患者や家族のQOLを考えた看護の実践が出来る

2 高齢者を取り巻く社会を理解し、老年看護について考えることが出来る

行動目標	実習内容	実習方法
1 高齢者の健康障害の特徴が理解できる	1) 対象の健康障害の特徴 (1) 疾病・障害の程度、疾患の経過 (2) 症状、治療内容・検査データ (3) 複合疾患との関連 (4) 合併症・2次障害の出現の有無と出現の危険性 (5) 健康段階の把握	1 -1) 1) 事前学習の病態生理(症状・検査・治療・看護を含む)や一般的な高齢者の健康障害の特徴を活用し、受け持ち患者と比較する
2 加齢変化・健康障害が高齢者の生活機能(身体的・精神的・社会的側面)に及ぼす影響が理解できる	1) 対象の加齢現象・健康障害が身体的・精神的・社会的側面に与える影響 (1) 加齢に伴う身体・精神・社会的変化 (2) 身体生理機能の変化・生体防御機能・合併症・認知症の有無 (3) 入院環境への適応 (4) 治療疾病の受け止め方、回復意欲・自発性 (5) 治療・検査が高齢者に与える影響 (6) 疾患や治療に伴う家族への影響 2) 対象の日常生活・日常生活行動への影響 (1) BADL・IADLの変化	2 -1)2) 1) 受け持ち患者とのコミュニケーション、援助の実施、観察を通して意図的に情報収集をする 2) 受け持ち患者に現れている加齢現象、健康障害について事前学習でまとめた高齢者の身体的・精神的・社会的加齢変化と比較する 3) 高齢者総合機能評価(CGA)：基本的日常生活動作(BADL)、手段的日常生活動作(IADL)、ブレデンスケール、転倒・転落スコアシート等を活用する 4) 加齢や疾患・治療による身体機能の変化・精神・社会面の影響、日常生活への影響、家族、社会資源を把握し、受け持ち患者の全体像を把握する
3 高齢者や家族のQOLを考慮した看護実践ができる	1) 高齢者や家族のQOLを考慮した看護の実際 (1) 対象の価値観・信念・生活習慣をふまえた援助 (2) 患者や家族への尊敬した態度 (3) 日常生活行動の自立、残存機能の維持・拡大に向けた援助 (4) 回復意欲の維持・向上のための援助環境 (5) 環境適応・調整への援助 (6) セルフケア能力の維持・向上に向けた援助 (7) 病状の悪化・二次的合併症の予防の援助 (8) 家族への援助	3 -1) 1) 受け持ち患者の生活習慣や生活行動、強みを考慮し援助を実施する 2) 受け持ち患者に現れている加齢現象と健康障害(疾患・治療)による身体・精神・社会面への影響をふまえ援助を実施する 3) 患者や家族にとってのQOLとは何か、QOL維持のためにできることは何かを考え援助する 4) 対象を取り巻く家族との関わりを持ち家族への援助を実施する 5) 見守る部分や介助する部分を考え援助する 6) 起こりうる危険を予測し援助を実施する

行動目標	実習内容	実習方法
<p>4 高齢者や家族の健康問題を解決するためのソーシャルサポートシステムが理解できる</p>	<p>1) 退院支援に向け保健・医療・福祉の連携 ↓ 生活の場の移動と看護の継続</p> <p>(1) 高齢者や高齢者を取り巻く家族・ソーシャルサポートシステムの状況の把握</p> <p>①地域支援事業 (介護予防事業・包括支援事業・任意事業)</p> <p>(2) 高齢者を取り巻く保健・医療・福祉の連携および看護師の役割</p> <p>① 高齢者を取り巻く関係職種の役割と連携</p> <p>② 関係職種との連携における看護師の役割</p> <p>(3) 高齢者を取り巻く社会へのサポートの必要性</p>	<p>4 -1)</p> <p>1) 受け持ち患者の退院支援、退院調整について情報収集を行い、退院に向けて必要な援助と、看護師の役割について学ぶ</p> <p>2) 他職種による退院支援、退院調整におけるカンファレンスや社会資源活用に向けての援助には可能な限り参加</p> <p>3) 退院支援と退院調整における看護について日々のカンファレンスで意見交換する</p>
<p>5 高齢者や家族のQOLを考慮した看護実践と自己の老年観を深めることができる</p>	<p>1) 対象のQOLとは何か</p> <p>2) 高齢者や家族のQOLを考慮した看護実践とは</p> <p>3) 自己の老年観</p> <div data-bbox="456 1368 940 1939" style="border: 1px dotted black; padding: 5px; margin-top: 20px;"> <p><b>カンファレンステーマ (例)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の加齢変化を踏まえた意図的な情報収集 (情報収集の視点)</li> <li>・対象に出現している加齢現象</li> <li>・高齢者の生活習慣や価値観・信念を考慮した看護</li> <li>・加齢や健康障害による高齢者への影響と援助の必要性</li> <li>・退院後の生活をふまえた援助</li> <li>・保健医療福祉の活用方法について</li> <li>・受け持ち患者のQOLとは</li> <li>・自己の老年観について</li> <li>・高齢者を介護する家族への看護について</li> </ul> </div>	<p>5 -1)2)3)</p> <p>1) QOL を考慮した看護について日々のカンファレンスにて意見交換する</p> <p>2) 実習を通しての学び、老年観、自己の課題についてレポートにまとめる (用紙：A4サイズ 1200字程度)</p> <p>3)最終カンファレンスで意見交換する</p> <div data-bbox="1007 1335 1506 1760" style="border: 1px dotted black; padding: 5px; margin-top: 20px;"> <p><b>事前学習</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 老年期の発達課題</li> <li>② 加齢現象と加齢による各種機能の変化・日常生活への影響</li> <li>③ 高齢者の健康障害の特徴</li> <li>④ 受け持ち患者の病態生理 (症状・検査・治療・看護を含む)</li> <li>⑤認知機能の障害に対する看護 (中核症状・BPSD・せん妄)</li> <li>⑥高齢者の生活を支える社会資源</li> <li>⑦退院支援と退院調整について</li> </ol> </div>